

(いただいたご意見・質問)

弾性範囲とひびわれは矛盾するのではないか。こうした説明をしたりさせたりするのは、誤りではないか。又、1号機の評価に再循環系配管がないのはどうした理由か。何故改めさせないのか。

(ご回答)

1. 東京電力(株)は、中越沖地震が柏崎刈羽原子力発電所の設備の健全性に及ぼした影響を評価するため、原子炉建屋について、地震応答解析を行い、建屋に生じる加速度等を算出しています。7号機の原子炉建屋の地震応答解析を、まずは線形解析により行い、今回の地震動による建屋の応答が、弾性範囲内にあるかどうかを評価しているところです。仮に弾性範囲を超えるような結果であれば、ひび割れ等の影響による剛性低下を考慮した非線形解析を行う必要があります。
2. 1号機の再循環系配管の解析は今後行われる予定であり、原子力安全・保安院としては、結果について厳正に確認していきます。また、前回の定期検査時(平成18年3月)に同配管で確認された欠陥(同年4月、保安院に健全性評価書を提出)に対する今回の地震の影響等についても確認してまいります。